

**大学教授等を交えた学力の  
現状についての分析をもと  
に各校における授業改善の  
充実を図る取組  
(学力向上分析委員会)**

**浜松市教育委員会**

平成30年11月29日

# 浜松市の概要

## 国土縮図型政令指定都市

- 人口：約80万人
- 面積：1,558.06Km<sup>2</sup>（全国第2位）
- 天竜川の上流部から下流部まで広大な市域を有する。
- 新幹線・東名高速道路、新東名高速道路などが通り、世界的な大企業の本社が市街地にはある。
- 遠州灘や浜名湖、天竜川や北遠の山々など、多様で豊かな自然に囲まれ、一次産業においても日本有数の産地となっている。



## 浜松市の学校（市立学校）

- 小学校 94校（分校含む）  
最大児童数 1,400人  
最小児童数 3人
  - 中学校 46校（分校含む）  
最大生徒数 825人  
最小生徒数 19人
  - 小中一貫校 3校
  - 総児童数 43,068人  
生徒数 20,269人
- (H30年5月1日現在)



# 目 的

- 浜松市の児童、生徒の学力や学習状況を把握分析するとともに、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 浜松市の児童、生徒の学力や学習状況について、各校に情報を提供し、学校における児童、生徒への学習指導の充実に役立てる。
- 浜松市の全国学力・学習状況調査の結果について保護者に説明したり、家庭と学校が一体となって児童、生徒の育ちと学びを促すため、家庭における児童、生徒への接し方について保護者に示唆を与える。

# 委員会の構成

- 平成26年度より設置
- 委員構成
  - 委員長 1名(静岡大学 村山 功 教授)
  - 委員 3名(静岡大学教授・静岡大学准教授)
  - 浜松市教育委員会 指導課 指導主事 5名

# 委員会の取組

- 全国学力・学習状況調査の分析
- 「浜松市の結果(概要)」の作成
- 今後の対策についての検討



## 教員対象

- 研修会
  - ・各校 研修主任等
- 学校訪問での指導



## 保護者対象

- 保護者リーフレットの作成・配布

# 保護者リーフレット

○平成26年度より発行

○毎年11月下旬

○内容

- (1) 本調査から見える浜松の子供のよいところ
- (2) 本調査の浜松市の結果
- (3) 質問紙から見る浜松市の子供の現状
- (4) 各教科の成果と課題及び改善例
- (5) 家庭における児童、生徒への接し方についてのヒント

浜松市の小学生・中学生の保護者の皆様へ  
～平成29年度全国学力・学習状況調査 浜松市の結果より～

## 未来を創る子供を みんなの力で

自分には、よいところがある  
小6 85.1%  
中3 77.6%

将来の夢や希望を持っている  
小6 88.5%  
中3 74.2%

人の役に立つ人間になりたい  
小6 93.3%  
中3 92.8%

学校に行くのは楽しい  
小6 88.6%  
中3 82.4%

～浜松市の子供のよいところ～

～児童・生徒質問紙の色別回答に対して、肯定的に答えて児童・生徒の割合～

**【教科に関する調査結果から】**  
平成29年度全国学力・学習状況調査における浜松市の小学校6年生及び中学校3年生の結果は、以下の表のとおりでした。各学校で自校の課題を明確にした授業改善が進んだ結果、教科に関する調査においては、平均正答率が多くなる傾向で全国を上回りました。  
今後も浜松市では、結果を踏まえて成果と課題を明確にし、調査結果の活用による指導の改善、充実に向けた取組を進めていきます。

教科	小学校(6年) 平均正答率(%)			
	国語		算数	
問題	A	B	A	B
浜松市	74	59	81	47
静岡県	74	59	78	46
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

教科	中学校(3年) 平均正答率(%)			
	国語		数学	
問題	A	B	A	B
浜松市	79	74	66	49
静岡県	78	74	67	50
全国	77.4	72.2	64.6	48.1

※A問題…主として「知識」に関する問題 B問題…主として「活用」に関する問題  
※平均正答率は、文部科学省発表の数値(静岡県内・指定都市は小教点以下1割1位を四捨五入した数値)による。

<平成29年度版>

# 成果と課題

浜松市の「目指す子供の姿」に向けた、各校における指導の意識の向上

各校における授業改善

児童、生徒の育ちと学びを促そうとする保護者の意識の高まり

各校の授業改善が、資質・能力の育成につながっているか考える必要がある

# 効果

調査結果の数理的な解析および経年変化の把握  
をもとにした指導

他市の学校との比較による本市の傾向の分析、  
今後の方向性や展望の把握

実態に即した問題点や改善点についての話し合い  
による課題解決